



平成24年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年12月1日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ザッパラス

コード番号 3770 URL <http://www.zappallas.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 川嶋 真理

問合せ先責任者 (役職名) 管理グループ セネラルマネジャー (氏名) 斉藤 征晃

TEL 03-5475-7133

四半期報告書提出予定日 平成23年12月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年4月期第2四半期の連結業績(平成23年5月1日～平成23年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年4月期第2四半期	5,293	△7.4	1,413	△13.7	1,416	△14.1	833	△14.4
23年4月期第2四半期	5,714	3.1	1,637	9.3	1,648	10.1	973	10.8

(注) 包括利益 24年4月期第2四半期 834百万円 (△14.4%) 23年4月期第2四半期 975百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年4月期第2四半期	6,696.42	6,586.89
23年4月期第2四半期	7,860.59	7,703.68

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年4月期第2四半期	8,653	7,253	83.0
23年4月期	8,774	6,927	78.4

(参考) 自己資本 24年4月期第2四半期 7,185百万円 23年4月期 6,875百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年4月期	—	0.00	—	4,200.00	4,200.00
24年4月期	—	0.00	—	—	—
24年4月期(予想)	—	—	—	4,200.00	4,200.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年4月期の連結業績予想(平成23年5月1日～平成24年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,200	△5.2	2,550	△17.0	2,550	△17.5	1,510	△7.2	12,135.82
	~12,600	~6.7	~3,080	~0.2	~3,080	~△0.3	~1,830	~12.5	~14,707.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、【添付資料】3ページ「2. サマリー情報(その他)に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年4月期2Q	134,110 株	23年4月期	134,110 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

24年4月期2Q	9,685 株	23年4月期	9,685 株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年4月期2Q	124,425 株	23年4月期2Q	123,814 株
----------	-----------	----------	-----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(2) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報等	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(7) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響から徐々に立ち直りつつあるものの、欧州諸国の財政問題やそれに伴う急激な円高の進行等により、依然として厳しい状況が続いております。

モバイルビジネスを取り巻く環境につきましては、モバイルコンテンツ市場とモバイルコマース市場をあわせたモバイルコンテンツ関連市場が2010年度に1兆6,550億円(前年同期比8.8%増)(注1)となり、依然としてマーケットは拡大しています。また、端末契約においては、フィーチャーフォン(注2)からスマートフォン(注3)への移行が進み、スマートフォン契約比率は、2011年3月末の8.8%から2012年3月末には23.1%に増加することが予測されるなど(注4)、モバイルコンテンツ関連市場を取り巻く環境は大きく変化していく可能性が見込まれています。

このような環境の中、当社グループでは更なる収益力の創造及び新たな成長事業の確立を目指し、一層の企業収益力の基盤強化を当連結会計年度のテーマとして取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,293,452千円(前年同期比7.4%減)、営業利益1,413,407千円(前年同期比13.7%減)、経常利益1,416,338千円(前年同期比14.1%減)、四半期純利益833,201千円(前年同期比14.4%減)となりました。

(注1) モバイル・コンテンツ・フォーラムの調査に拠っております。

(注2) フィーチャーフォンとは、通話機能を主体とし、その他にカメラやワンセグをはじめとする機能を搭載している従来型の携帯電話のこと。

(注3) iPhone やAndroid に代表される、パソコンと同等の機能を持ち合わせた多機能携帯端末のこと。

(注4) 株式会社MM総研の調査に拠っております。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

①コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、フィーチャーフォン市場での収益力の向上及びシェア拡大と、台頭するスマートフォン市場への対応を課題として取り組んでまいりました。

平成23年6月よりスマートフォンでも利用可能な占いコンテンツを紹介するアプリ「cocoloni(ココロニ)占いコレクション」の提供を開始したほか、当第2四半期連結累計期間においては、各キャリアのスマートフォン向けサービスの開始にあわせ、当社が提供するフィーチャーフォン向け公式占いコンテンツを順次提供しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、フィーチャーフォン向け公式コンテンツでは26サイト、スマートフォン向けコンテンツでは71サイト、PCコンテンツでは104サイト(注5)の新規投入を行い、当連結会計年度末現在におけるフィーチャーフォン向け公式コンテンツは484サイト、スマートフォン向けコンテンツは71サイトとなり、月額課金会員数は191万人となりました。

以上の結果、スマートフォン向けコンテンツの課金対象者数は増加したものの、フィーチャーフォン向け公式コンテンツの課金対象者数の減少をカバーすることができず、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,063,818千円(前年同期比8.1%減)、セグメント利益は、1,722,264千円(前年同期比12.4%減)となりました。

(注5) PCコンテンツには、当第2四半期連結累計期間より、ISP向け公式コンテンツに加え、自社サイト「cocoloni本格占い館」向けコンテンツのサイト数も含めております。

②コマース関連事業

当社グループのコマース関連事業は、モバイルコマース事業と携帯電話販売事業の2つに大きく分けられます。モバイルコマース事業につきましては、新規顧客による売上高拡大を最優先とした販売活動を行う前期の戦略から、LTV(注6)を最重要係数とする当社グループの基本方針に基づき、モバイルコマース事業戦略の見直しを実施いたしました。当第2四半期連結累計期間より、顧客との長期的な関係づくりを最優先し、会員サービスを充実させるべく、CRMの検証、再構築を開始し、取扱い商材の見直しを行ったことにより商材を絞ったため、前年同期と比較して、売上高、セグメント利益ともに減少いたしました。また、携帯電話販売事業を行っている子会社の株式会社ジープラスにつきましては、引き続き収益及び利益の拡大に向けて努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,115,634千円(前年同期比4.7%減)、セグメント利益は、25,695千円(前年同期比54.1%減)となりました。

(注6) ライフタイムバリューの略。顧客がその企業に対して将来的にもたらす利益のこと。

③その他の事業

その他の事業につきましては、主に、モバイルサイト開発受託と「Y! Suica」等のサイト運営を他社と共同で行ってまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は114,000千円（前年同期比5.8%減）、セグメント利益は、開発受託案件を受けたことにより57,582千円（前年同期比202.3%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して121,008千円減少し、8,653,044千円となりました。その主な要因は、現金及び預金の増加額274,059千円はあったものの、売上高の減少による売掛金の減少額378,022千円、有価証券の減少額99,841千円によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比較して446,689千円減少し、1,399,516千円となりました。その主な要因は、買掛金の減少額108,041千円、未払金の減少額207,900千円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して325,680千円増加し、7,253,527千円となりました。その主な要因は、利益剰余金の増加310,616千円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して274,217千円増加し、4,861,373千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は、893,100千円（前年同期は596,475千円の増加）となりました。その主な要因は、法人税等の支払額632,140千円があったものの、税金等調整前四半期純利益1,409,844千円の計上、減価償却費128,812千円の計上によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は、98,521千円（前年同期は215,279千円の減少）となりました。その主な要因は、有価証券の償還による収入100,000千円があったものの、有形固定資産の取得による支出27,776千円、無形固定資産の取得による支出173,906千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は、520,361千円（前年同期は517,242千円の減少）となりました。その要因は、配当金の支払額520,361千円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

株式会社ビーバイイーの株式を平成23年11月30日付にて取得、子会社化いたしました。当期の連結業績に与える影響につきましては現在精査中であり、確定次第速やかに開示いたします。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日）を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に当たり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、これによる影響はありません。

(2) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,083,929	4,357,988
売掛金	2,412,631	2,034,608
有価証券	603,226	503,384
商品及び製品	45,614	49,269
仕掛品	—	31
その他	154,780	187,264
貸倒引当金	△36,329	△32,217
流動資産合計	7,263,852	7,100,330
固定資産		
有形固定資産	136,783	126,458
無形固定資産		
ソフトウェア	244,301	315,390
のれん	49,269	47,589
その他	37,567	29,148
無形固定資産合計	331,138	392,128
投資その他の資産		
投資有価証券	629,095	618,568
その他	413,182	415,557
投資その他の資産合計	1,042,278	1,034,126
固定資産合計	1,510,200	1,552,713
資産合計	8,774,052	8,653,044
負債の部		
流動負債		
買掛金	486,879	378,837
未払金	537,401	329,501
未払法人税等	645,625	608,257
賞与引当金	—	2,610
その他	176,299	80,309
流動負債合計	1,846,206	1,399,516
負債合計	1,846,206	1,399,516
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,452,343	1,452,343
資本剰余金	1,377,718	1,377,718
利益剰余金	5,542,983	5,853,600
自己株式	△1,495,870	△1,495,870
株主資本合計	6,877,175	7,187,792
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,720	△2,375
その他の包括利益累計額合計	△1,720	△2,375
新株予約権	—	13,629
少数株主持分	52,391	54,481
純資産合計	6,927,846	7,253,527
負債純資産合計	8,774,052	8,653,044

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年5月1日 至平成22年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)
売上高	5,714,699	5,293,452
売上原価	1,876,385	1,751,443
売上総利益	3,838,313	3,542,009
販売費及び一般管理費	2,201,076	2,128,601
営業利益	1,637,236	1,413,407
営業外収益		
受取利息	1,491	847
持分法による投資利益	5,826	2,032
受取技術料	1,455	1,315
貸倒引当金戻入額	—	4,112
投資事業組合投資利益	805	—
その他	3,003	2,120
営業外収益合計	12,582	10,428
営業外費用		
支払利息	1,389	1,346
投資事業組合投資損失	—	6,013
その他	234	136
営業外費用合計	1,624	7,497
経常利益	1,648,195	1,416,338
特別損失		
固定資産除売却損	5,362	1,243
投資有価証券評価損	—	5,250
特別損失合計	5,362	6,493
税金等調整前四半期純利益	1,642,832	1,409,844
法人税、住民税及び事業税	624,361	596,234
法人税等調整額	42,110	△21,681
法人税等合計	666,471	574,553
少数株主損益調整前四半期純利益	976,361	835,291
少数株主利益	3,109	2,090
四半期純利益	973,251	833,201

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年5月1日 至平成22年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	976,361	835,291
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△870	△655
その他の包括利益合計	△870	△655
四半期包括利益	975,491	834,636
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	972,381	832,546
少数株主に係る四半期包括利益	3,109	2,090

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年5月1日 至 平成22年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年5月1日 至 平成23年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,642,832	1,409,844
減価償却費	138,836	128,812
長期前払費用償却額	740	1,565
投資事業組合運用損益 (△は益)	△805	6,013
のれん償却額	6,815	1,680
株式報酬費用	—	13,629
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	6,323	△4,112
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,920	2,610
受取利息	△1,491	△847
支払利息	1,389	1,346
固定資産除売却損益 (△は益)	5,362	1,243
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	5,250
持分法による投資損益 (△は益)	△5,826	△2,032
売上債権の増減額 (△は増加)	△449,931	378,022
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△15,616	△3,606
仕入債務の増減額 (△は減少)	12,056	△108,041
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△7,143	△17,461
未払金の増減額 (△は減少)	32,737	△189,268
その他	△145,395	△99,229
小計	1,222,804	1,525,420
利息の受取額	1,498	1,167
利息の支払額	△1,389	△1,346
法人税等の支払額	△626,438	△632,140
営業活動によるキャッシュ・フロー	596,475	893,100
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	—	100,000
有形固定資産の取得による支出	△31,647	△27,776
無形固定資産の取得による支出	△158,934	△173,906
投資有価証券の取得による支出	△19,433	—
差入保証金の差入による支出	△100	—
差入保証金の回収による収入	4,354	156
その他	△9,518	3,004
投資活動によるキャッシュ・フロー	△215,279	△98,521
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	853	—
配当金の支払額	△516,887	△520,361
その他	△1,208	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△517,242	△520,361
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△136,046	274,217
現金及び現金同等物の期首残高	3,780,961	4,587,155
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,644,914	4,861,373

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年5月1日 至平成22年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ 事業	コマース 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,423,359	1,170,309	5,593,668	121,030	5,714,699	—	5,714,699
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	4,423,359	1,170,309	5,593,668	121,030	5,714,699	—	5,714,699
セグメント利益	1,965,226	56,006	2,021,232	19,045	2,040,277	(403,040)	1,637,236

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託業務及び広告事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年5月1日 至平成23年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ 事業	コマース 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,063,818	1,115,634	5,179,452	114,000	5,293,452	—	5,293,452
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	4,063,818	1,115,634	5,179,452	114,000	5,293,452	—	5,293,452
セグメント利益	1,722,264	25,695	1,747,959	57,582	1,805,541	(392,134)	1,413,407

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託業務及び広告事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

当第2四半期連結会計期間（自平成23年8月1日 至平成23年10月31日）

（株式取得による会社等の買収）

当社は、平成23年11月29日開催の取締役会において、株式会社ビーバイイーの株式を取得し、子会社化することを決議し、平成23年11月30日付けにて、当該株式の取得を行いました。

1. 株式取得の目的

株式会社ビーバイイーの持つオーガニックコスメ等の企画・開発・販売事業を当社のビジネスモデルに組込んでいくことは、当社グループの顧客の一層の拡大と、高付加価値商材の獲得によるコマース事業の成長に寄与するものと考えております。従いまして、今回の株式取得は両社の企業価値を大きく高める視点から有効かつ重要であると判断し、同社を当社の子会社とすることといたしました。

2. 株式取得の相手会社の名称

有限会社エム・アルファ

3. 買収する会社の名称、事業内容、資本金（平成23年11月29日現在）

名称	株式会社ビーバイイー
事業内容	化粧品の製造・販売・輸出入 健康食品・健康補助食品の製造・販売・輸出入 リラクゼーションサロン等の企画、コンサルティング業務及び経営
資本金	10百万円

4. 株式取得の時期

平成23年11月30日

5. 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

取得株式数	9,000株
取得価額	663百万円（取得対価であり、付随費用は含めておりません。）
取得後の持分比率	68.9%

6. 支払資金の調達方法

自己資金